

大阪科学・大学記者クラブ 加盟社各位
同時提供先：大阪府政記者会（大阪府より提供）

2026年7月10日

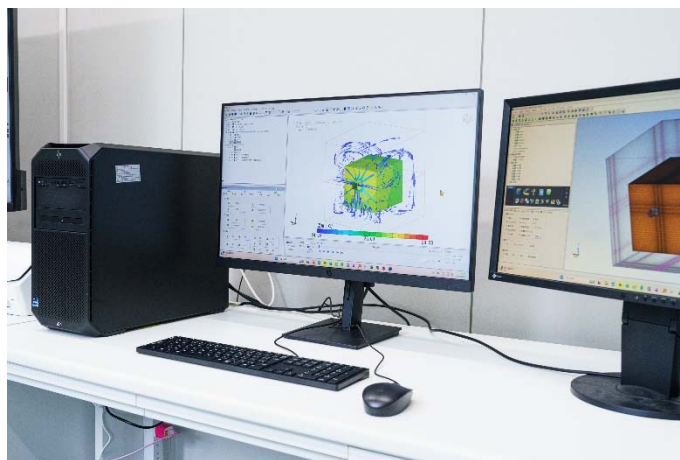
見えない空気を見える化する施設 8月21日「IAQ技術開発センター」オープン記念イベントを開催！ ※IAQ：室内空気質（Indoor Air Quality）

- 地方独立行政法人大阪産業技術研究所(本部:大阪府和泉市、理事長 湯元 昇、以下、ORIST オリスト)は、大阪府・大阪市が設置した技術支援機関です。このたび、ORIST和泉センターの、室内空気質に関する製品開発を支援する「IAQ技術開発センター」オープン記念イベントの開催をお知らせいたします。当日は、IAQに詳しい専門家の講演と、施設見学をセットで開催します。是非ご参加ください。
- **8月21日（金）13:30～17:00 大阪産業技術研究所 和泉センター（和泉市あゆみ野2-7-1）にて**
【実測】と【シミュレーション】の両輪で技術支援



【実測】「空気質評価用大型チャンバー」
横幅：約7m、高さ：約3.6m

実際の生活空間に近いスケール(30m³)で、におい物質や浮遊微粒子の広がり方、空気の清浄化過程を高い再現性で評価できます。




【シミュレーション】空気環境用流体解析ソフトウェア
空間内における空気の流れや温度変化、におい物質や浮遊微粒子の広がり方などをシミュレーションできます。

■「IAQ技術開発センター」

人は1日の90%を室内で過ごし、1日に18kgもの空気を吸い込んでいます。つまり、健康で快適な暮らしを実現する上でIAQの向上は非常に重要になります。本センターでは、企業の皆様のお役に立つIAQの「見える化」を目指した技術開発を進めるとともに、IAQに関わる様々な製品や材料の開発を「実測」と「シミュレーション」で支援します。

■ イベントの内容

◆ 基調講演 1	『建築環境工学における室内空気質と今後の展開』 東京科学大学環境・社会理工学院 建築学系 教授 鍵 直樹（かぎ なおき）
◆ 基調講演 2	『「二オイを測る」とはということかー ヒトの嗅覚、二オイセンサ40余年の挑戦、IAQへの展開 ー』 (国研) 物質・材料研究機構 (NIMS) 高分子・バイオ材料研究センター 嗅覚センサグループグループリーダー 吉川 元起（よしかわ げんき）
◆ 「IAQ技術開発センター」の説明と見学会	

問合せ先	(地独) 大阪産業技術研究所 法人経営本部 企画部 担当：松永（和泉センター） 電話 0725-51-2511 matsunaga@orist.jp	
関連URL	https://orist.jp/izumi/events/seminar/155576/155590/2026082101.html	
添付資料	裏面：主要機器、IAQとは（補足説明）、講演者略歴、添付資料：イベントチラシ	

項目	内容
主要機器	<p>1：空気質評価用大型チャンバー（30m³）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際の部屋と同じぐらいの空間で消臭剤・脱臭剤や空気清浄機がどの程度効果を発揮するかを評価できる。 ・家具などの大型試料から「どんな化学物質」が「どの程度放散」するかを測定できる。 <p>2：空気環境用流体解析ソフトウェア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンピューターを用いて空気の動き（流れる方向・速さ）や温度を予測し、目に見えない空気の動きを「見える化」できる。 ・実際に測定が難しい空間（巨大な空間や特殊環境）においても、どのような現象が起きるかを事前に予測することができる。 <p>3：高精度ガス／蒸気吸着測定装置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消臭・脱臭剤の物性評価に利用 ・炭やシリカゲルのように目には見えない小さな孔を有する材料（多孔質材料）の、孔の大きさや表面積を測定する。 <p>4：貫通孔径測定装置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空気清浄機に使われるフィルター材など、シート状多孔質材料の孔径を測定するための装置
IAQとは	<p>IAQはIndoor Air Qualityの略称で、日本語では「室内空気質」と言います。近年、IAQ関連の技術開発が活発化しており、特に「におい」が集中力やストレスに及ぼす影響などが注目されています。</p> <p>IAQは、「におい」や「清浄度」、「空気の流れ」により評価されます。簡潔に言うと、「部屋の空気がどれくらいキレイか」を評価します。室内の空気には、悪臭や芳香などのにおい物質、二酸化炭素、揮発性有機化合物やホルムアルデヒドなどの化学物質、ほこりや粉じんなどが含まれています。これら化学物質や微粒子状物質の濃度が空気の質（キレイさ）に大きな影響を及ぼします。</p> <p>人々は1日の90%を室内で過ごし、1日に18kgもの空気を吸い込んでいます。食べ物や飲み物よりもはるかに多くの空気を体内に取り入れているため、健康で快適な暮らしを実現する上でIAQの向上は非常に重要になります。</p>
講演者略歴	<p>◆鍵 直樹（かぎ なおき） 東京科学大学環境・社会理工学院 建築学系 教授 1999年以降 東京工業大学特別研究員、助手、国立保健医療科学院研究員を経て、東工大准教授、教授 2024年10月 東京科学大学環境・社会理工学院 教授（現在） 建築環境工学・室内空気質（IAQ）の専門家 室内空気環境や化学物質・エアロゾルの研究において国内外で高く評価されている。</p> <p>◆吉川 元起（よしかわ げんき） （国研）物質・材料研究機構（NIMS） 高分子・バイオ材料研究センター 嗅覚センサグループグループリーダー 2008年 NIMS 国際ナノアーキテクトニクス研究拠点（MANA） リサーチアソシエイト等を歴任 2022年 NIMS 高分子・バイオ材料研究センター グループリーダー、筑波大学連携大学院 教授、Qception社CTOを兼任</p> <p>文部科学大臣表彰 科学技術賞（開発部門）など受賞歴多数 超小型の嗅覚センサ「MSS（膜型表面応力センサ）」の開発者として世界的に知られる。</p>